

第4学年 道徳学習指導案

2組 計23人(男子10人,女子13人)

指導者 田平奈保美

1 主題名 信じることの大切さ (2-(3) 友情・信頼, 助け合い)
読み物資料「もどらない友」(学習研究社4年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年2-(3)】 友達と仲よくし、 助け合う。
【中学年2-(3)】 友達と互いに理解 し、信頼し、助け 合う。
【高学年2-(3)】 互いに信頼し、学 び合って友情を深め、 男女仲良く協力し助 け合う。

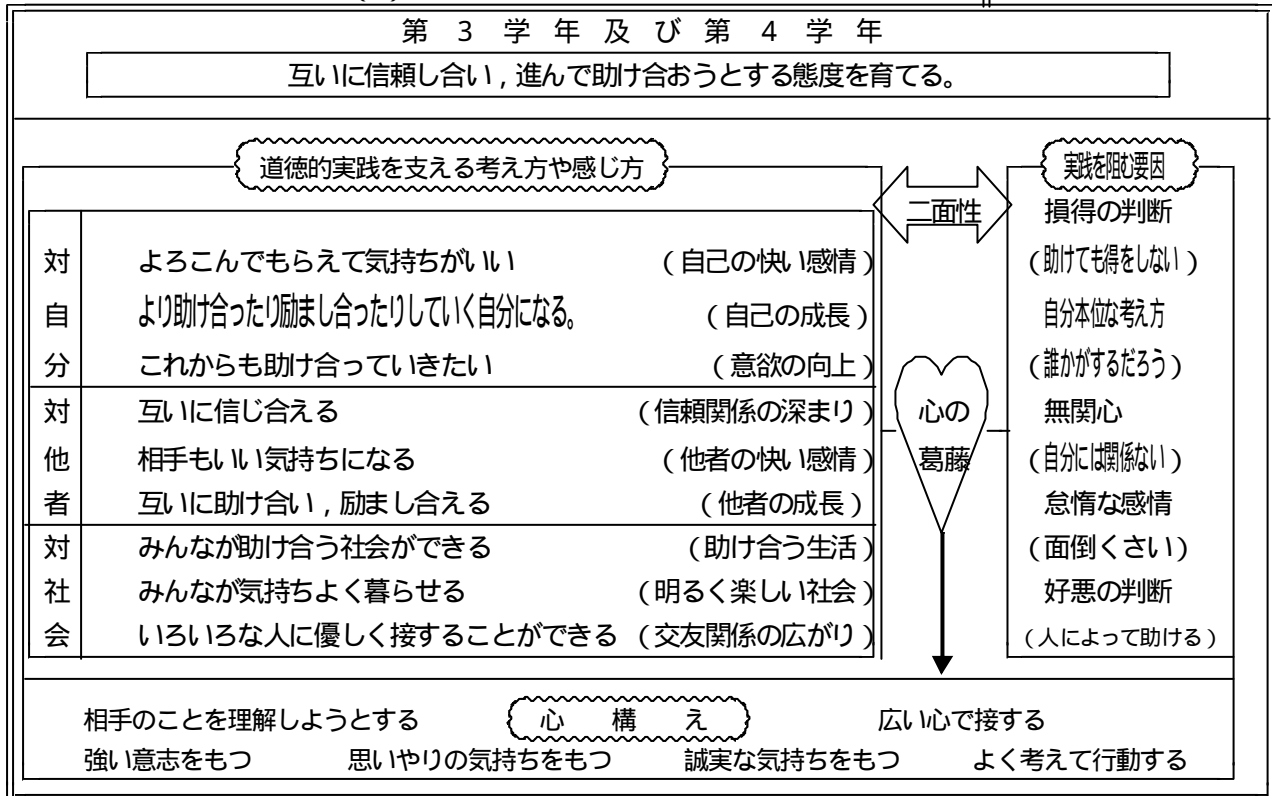
(2) 指導内容についての基本的な立場

「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」とは、友達と信頼関係を築き、助け合う精神をもつことであり、人間がよりよい社会生活をおくるための基盤となるものである。

この期の子どもたちは、社会性が発達し、相手の気持ちや立場を理解したり、認めたりすることができるようになってくる。また、「友達」という存在を意識し始め、自分が一緒に何かをしたいと思う相手、一緒にいて楽しく気が合う相手が友達だと思ふようになり、仲間集団が形成されてくる。また、その集団において、自分たちで目標達成に向けて主体的にかかわったり、自分たちでルールやきまりをつくったりするなどの自主性も発達してくる。しかしながら、時折、損得の判断や自分本位な考え方で行動してしまい、友達は大切と思っていながらも望ましい友達関係や信頼関係にまでは至っていない状況が見られる。

そこで、本主題では、相手の立場や気持ちを自分のこととして察することができるようになったとき、互いに信頼し合うことのよさを感じ取ることができることに気付くようにする。そして、自分の友達について見つめ直すことで、よりよい友達関係を築くことの大切さに気付くようにする。これらのことにより、互いに信頼し合うことの大切さを感じ取り、進んで助け合おうとする態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

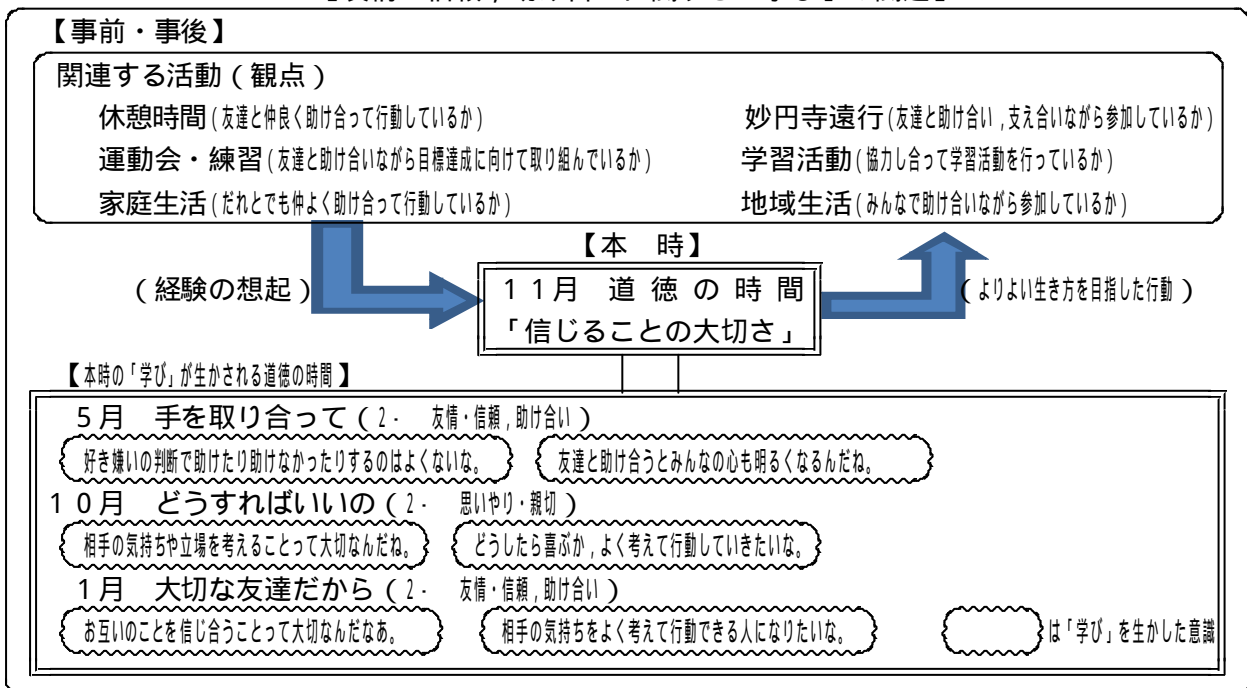


(は重点項目)

(4) 本主題における「学び」の系統と関連

友達と仲良くし、助け合うことができる子ども			
	道徳性に関する発達	心の弱さ	大切にしたい心構え
高学年 期	先を考えて行動することができるようになってくる (見通しをもった行動)	周囲の視線が気になり、自分の気持ちをつまく表すことができない (羞恥心)	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や気持ちを理解して行動する。 寛大な心をもって友達と接する。 我慢強い心をもつ。
	性別を意識せず、相手のことを考えて行動できるようになる。 (他者理解の成長)	自分の価値判断に基づき行動してしまう (価値観の画一化)	
	自己の欲求を抑えて行動できるようになってくる (忍耐力の成長)		
中学年 期	相手や集団の事を考えて行動できる (社会性の成長)	他人の意見に流されてしまう (主体性の欠如)	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことを理解する。 思いやりの気持ちをもって、広い心で接する。 よく考えて行動する。 強い意志をもつ。 公平な態度で接する。
	行為に対して、内省することができるようになってくる (反省能力の成長)	男女が互いに意識し始め衝突し合う (性意識の芽生え)	
	自分の価値観で交友関係を広げる (社会性の発達)	相手によって態度や行動をかえてしまう (好悪の判断)	
低学年 期	よいことと悪いことの区別がつくようになってくる (善悪の判断)	誘惑に負けてしまう (自己中心的な考え)	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考える。 自分勝手なことをしないようによく考える。 やさしい気持ちをもつ。
	いろいろな友達と仲良くしようと する (好奇心の成長)	そのときの気分で行動してしまう (思慮不足)	

【友情・信頼、助け合いに関する「学び」の関連】



【資料について】

金堀りをするために冬ごもりを決めたチャオヨウとハーハオ。買い出しに出かけたハーハオが何日たっても戻ってこない。冬ごもりのためのたきぎと食べ物もなくなり、洞窟の外で吠えるおおかみやくまの声におびえながら逃げたハーハオを恨むチャオヨウ。しかし、買い出しの帰りにくまに襲われたハーハオは、残りの金の粒を村人に渡し、買いそろえた食べ物と冬ごもりの用具を、チャオヨウに渡すように頼んでいた。それを知ったチャオヨウは、声を上げて泣き続けた。

3 子どもの実態

(調査人数23人 重複あり H21. 9.25)

(1) 本主題に関する経験場面		(2) 本主題に関する経験の理由	
友達を助けたりやさしくできたりした経験	人数	できた理由	人数
・ 忘れ物をした友達に物を貸してあげた	20	・ 相手が困っていて心配だから	14
・ 優しく接することができた	13	・ 相手が喜ぶから	7
・ 困っているときに助けた	7	・ 自分が困ったとき助けてもらえるから	6
・ 順番を譲ってあげた	4	・ 相手が優しくしてくれたから	5
・ 一人ぼっちの友達を誘ってあげた	3	・ かわいそうだから	4
・ けんかをとめた	1	・ 友達を大事にしたいから	2
(3) 本主題に関する経験場面		(4) 本主題に関する経験の理由	
友達を助けなかつたりやさしくできなかつたりした経験	人数	できなかった理由	人数
・ 困っている友達に何もしなかった	19	・ 自分のことだけ考えていたから	10
・ 忘れ物をした友達に物を貸してあげられなかった	18	・ 面倒だったから	9
・ 仲間に入れられなかった	5	・ だれかがしてくれるだろうと思ったから	6
・ けんかをした	3	・ 他にやりたいことがあったから	6
・ 無答	1	・ けんかにまきこまれるといやだから	2
(5) 道徳的価値の意義		(6) 道徳的価値に対する心構え	
友達と信頼し、互いに助け合うことはなぜ大切か	人数	友達と信頼し、互いに助け合うための心構え	人数
・ 友達が増えるから	11	・ 優しい気持ちをもつ	12
・ 相手やみんながうれしくなるから	9	・ 自分から助けようとする気持ち	10
・ すっきりするから	8	・ 自分勝手な行動をしない	6
・ 心の中で通じ合うから	8	・ 差別をしないで誰とでも友達になるうとする気持ち	6
・ いざというとき、協力し合えるから	6	・ 相手の気持ちを考える	5
・ 無答	1	・ 無答	1

【考察】

学級のすべての子どもは、日常生活の場面で友達を助けたり優しくしたりすることができた経験をもっていることが分かった。その理由として、「相手が困っていて心配だから」「相手が喜ぶから」といった相手の立場や気持ちを考えたものが多く見られた。また、「相手が優しくしてくれたから」「大事な友達だから」といった自己の成長から交友関係の広がりについて理由を挙げた子どもも見られた。しかし、その反面、「自分のことだけ考えていたから」「だれかがやってくれるだろうと思ったから」といった自分本位な考えや、「面倒だったから」といった怠惰な感情などの理由から、助け合うことができなかった経験もほとんどの子どもももっていることが分かった。また、今回の実態では、人によって助けるといった好悪の判断による理由は見られなかった。友達と助け合うことの意義については、「すっきりするから」といった自己、相手の感情の高揚に関する理由だけでなく、「友達が増えるから」といった明るく楽しい生活や、交友関係の広がりにつながる理由も見られた。また、助け合うための心構えについては、多くの子どもが「優しい気持ちをもつこと」「相手の気持ちや立場を考えること」が大切であると答えていた。そして、「自分から助けようとする気持ちをもつ」という回答も多く見られた。これらのことにより、友達と信頼し合い、互いに助け合うことの大切さを理解していながらも、その実践については実現の過程にあることが分かる。

そこで本時では、相手を意識してできた経験の理由と、自分本位や損得の感情でできなかった経験の理由を対比させることで、相手と助け合っていくことは大切だとは分かっているながらも、なかなか実践できないのは、自分自身にどんな気持ちがあるからなのか、また、相手の気持ちや立場を考えるには、どんな心構えをもてばいいのか深く考えることができようにする。そのことが、友達と互いに信頼し合い、進んで助け合おうとする態度を育成していくことにつながると考える。

4 本時

(1) 目標

友達と互いに信頼し合い、助け合おうとする態度を育てる。

(2) 指導に当たって(研究の視点との関連)

以上のような子どもの実態や主題のねらいを踏まえ、次のようなことに配慮して指導していく。

「気付く」過程で、実態調査の結果を基に、意図的指名を取り入れ、自分本位な考えや思慮不足に起因する友達を助けなかつたり優しくできなかつたりした理由を想起しやすくすることで、課題意識を高めたためあての設定につなぐことができるようにする。

「見つめる」過程で、資料の主人公の気持ちと比較する「心のサークル」や友達の考えと比較し、どの考えを大切にすることを判断しやすくする価値観の類型化を取り入れることで、子どもが自己の「学び」をより見つめて、生かすことができるようにする。

「気付く」「深める」「高める」過程で「自分づくりカード」を活用することで、自分の経験を振り返ったり、価値の自覚化を図ったりする際の子どもたちの考える手がかりとなるようにし、自分の考えをカードに書き込むことで、友達と互いに信頼し合い、助け合うことについて自分の意識の広がりや深まりを視覚的にとらえることができるようにする。

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気付く (5)	<p>1 信頼できない、助けられないなど、友達を大切にできなかった経験について話し合う。</p> <p>独りぼっちになっている友達を見つけたのに、仲間に入れることができなかったな。</p> <p>友達をもっと大切にするためには、どんな気持ちを持てばよいだろう。</p>	<p>実態調査を基にした意図的指名や、「自分づくりカード」を基にしながら、友達と助け合うことができなかった経験を想起することで、本主題にかかわる課題意識をもつことができるようにする。</p> <p>誰にでも、つい友達を大切にできなかった経験があることを認め合うようにすることで、課題意識が高まった上でめあての設定につなげる。</p> <p>チャオヨウの気持ちの変化に着目して資料を視聴できるようにすることで、話し合う場面の焦点化を図る。</p>
見 つ め る (30)	<p>2 資料「もどらない友」を読んで、チャオヨウの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 心に残った場面について話し合う。</p> <p>(2) 冬ごもりで極限状態になった時のチャオヨウの気持ちについて話し合う。</p> <p>たき木も食べ物もなく、けもののおびえながら、チャオヨウはどんな気持ちだったのだろう。</p> <p>・ ハーハオは逃げたのだろうか。 ・ 自分ばかり逃げて腹が立つ。 ・ 生き続けて仕返しをしてやりたい。</p> <p>・ いや、きっと帰ってくるはず。 ・ 信じているよ。</p> <p>(3) 村人の話を聞いたチャオヨウの気持ちについて話し合う。</p> <p>村人の話を聞いてチャオヨウが泣いたのは、どんな気持ちからだろう。</p> <p>対自 ・ ハーハオのことをうらんだりして悪かった。 対他 ・ ぼくのためにこんなに一生懸命だったんだね。・ ハーハオありがとう。 対社 ・ 村の人々は、ハーハオの気持ちをよく届けてくれたな。</p>	<p>誰にでも、つい友達を大切にできなかった経験があることを認め合うようにすることで、課題意識が高まった上でめあての設定につなげる。</p> <p>チャオヨウの気持ちの変化に着目して資料を視聴できるようにすることで、話し合う場面の焦点化を図る。</p> <p>極限状態に置かれたとき、不安、不信、恨み、憎しみにいった心の弱い面が表れることに気付くようにする。</p> <p>「心のサークル」を活用し、チャオヨウと自分の気持ちを比較し視覚的に表すことで(帰ってくる・ピンク、帰ってこない・水色)自分の経験を想起しながら判断ができるようにする。</p> <p>チャオヨウの顔の吹き出しの中に表れる友達を大切にすることへの価値観を、3つの観点(対自分、対他人、対社会)で分類し、同じ価値観や違う価値観で交流することで、子どもが友達の考えと比較したり、今後に生かしたい考えを判断したりしやすくする。</p>
深める・高める (10)	<p>3 これまでの自分を振り返って、友達を大切にすることに関する経験や考えをまとめる。</p> <p>これまでの自分の経験を振り返って考えてみよう。どんな心構えや気持ちがあったら、友達を大切にできたのかな。</p> <p>・ 友達から注意されて頭にきたけれど、ぼくのことを考えてくれたんだなあ。 ・ 相手の気持ちや立場を考えたから困っている友達を助けてあげられたよ。</p> <p>4 教師の話を聞く。</p> <p>先生も友達とそんなことがあったんだね。 もっと友達のことを考えて行動していきたいな。</p>	<p>本主題に関わる価値観を広げたり、深めたりすることができたか。</p> <p>【ワークシート、発言】</p> <p>「自分づくりカード」を用いて、本主題に関する心構えをまとめ、経験の振り返りという形で整理することにより、自分の考えや気持ちの変化についても振り返るようにする。</p> <p>なかなか自分の経験を振り返ることができない子どもに対しては、再度「心のサークル」を使って気持ちの変化に気付くようにしたり、表情絵等を示したりして、経験を振り返りやすくする。</p>